

下駄とばし ルールブック



日本下駄とばし協会

はじめに

「下駄」は古来より、日本文化として庶民の中に根づいたはきものです。かつては「明日天気にな〜れ」と下駄を飛ばしていた光景も、今では見かけることが少なくなりました。

日本一の下駄生産を誇る広島県福山市松永地域では、1994年から飛距離を競う「下駄とばし」を行い、「下駄の産地」としての情報発信を行っています。

この「下駄とばし」には、「下駄」をはくときの「下肢(あし)」の動き、また、「下駄」を飛ばすときの「足趾(ゆび)」の動きが、脳を刺激し、近年、弱化しつつあるといわれている「下肢(あし)と足趾(ゆび)」を「第2の心臓のポンプ役」として蘇らせるという効果があります。

老若男女を問わず、気軽に楽しむことができ、「足からの健康」と「豊かな心」を育む競技として「まつなが下駄とばし」は親しまれています。

概 要

- ① 専用の「下駄」を助走エリアから飛ばし、飛距離を競う競技です。
- ② ルールが簡単で、競技を行う人は、特別な準備は必要ありません。
- ③ 参加人数や競技開催時間に制限がなく誰でも行えるので、運動会や地域のイベントの呼び物として最適です。
- ④ このルールブックによる最高記録は、公式記録として「日本はきもの博物館」に掲示されます。

目 次

1条 競技

2条 競技場及び競技用具

3条 競技役員

4条 競技方法

5条 ファウル(無効)及び失格

6条 計測方法及び記録

付 その他

(1)競技用具の購入について

(2)「日本はきもの博物館」について

(3)「リハビリ下駄とばしのすすめ」について

1条 競技

競技者が一足(一対)の専用の下駄を助走エリアから2回飛ばし、遠くに飛ばした方の飛距離を競います。

2条 競技場(コース)及び競技用具

コースは、助走エリアと同じ高さの平らな土の上に設定します。また、助走エリアも平らな土の地面とします。

助走エリアは長さ3m×幅6m、フライコースは幅6mとし、踏み切り線から5m毎に、踏み切り線に平行にラインを引きます。

(別図①参照)

※ 砂, 芝, アスファルトの上でもかまいませんが, 公式記録は土のコースのみとします。また, 記録の公平性を考え, 下り斜面は使用しないでください(上り斜面可)。

公式競技用具はつぎのとおりです。

一般用(男女とも) …………… 片方の下駄が230～250g
形状・材質は, 別図②参照

子ども用(小学生・幼児) …………… 片方の下駄が220g以下
形状・材質は, 別図③参照

※ 計測員は競技用具が基準をパスしているか否か確認してください。

※ 公式記録は公式競技用具での記録に限ります。

3条 競技役員

競技役員は, 主審1名, 計測員2名とし, 必要により主審を補助する副審など, その他の競技役員を増員することができます。

(1) 主審

試合中のすべての判定を行います。競技役員の増員及び配置も主審の判断によります。

主に

- ① 競技の開始・終了の合図
- ② 競技時間の測定(開始の合図から 60 秒)
- ③ ファウルの最終判定及び失格の判定
- ④ コート設置の最終確認
- ⑤ 新記録更新時の計測確認
- ⑥ その他, 本ルールブックの規定に該当しない状況が生じた場合の最終決定

(2) 計測員

- ① コートの作成及び競技用具の事前確認
- ② 競技記録の計測及び記録
- ③ ファウルの判定(フライコースから出たもの)

4条 競技方法

(1) 競技者は素足で一足(一対)の下駄を履き, 助走エリア内に入ります。

※ 一足(一対)の下駄を履くのが困難な者は, エリア内に下駄を持って入ることができますのであらかじめ役員に申し出てください。

※ 介助者が必要な者は, あらかじめ役員に申し出てください。

(2) 主審の開始の合図により, 60 秒以内に踏み切り線を越えないように前方に2回の試技を行います。

※ 下駄を飛ばす際は, 鼻緒を足の指ではさむこととします。但し, 「はさむ」ことが困難な者は, あらかじめ役員に申し出てください。

※ 1回目の試技において, 片足は素足でもかまいません。

(3) 2回目の試技については, 1 回目の試技と同じ足に下駄を履き替

えてよいものとしませんが、履き替える時間も競技時間に含めません。

- (4) 複数コースで競技を行う場合は、空中で下駄が接触しないように、競技者が互いに気を付けることとします。
- (5) 2回の試技を終了した競技者は、助走エリア内で一旦静止した後、助走エリアの後ろから退場します。
- (6) 競技者全員の助走エリアからの退場もしくは競技開始合図の60秒後のいずれか早い時点をもって、主審は競技終了の合図をします。
- (7) 一旦競技を終了の合図をしたのち、改めて試技を認められたものは、1試技につき30秒以内で試技を行います。

※「改めて試技を認められたもの」については、5条(2)②～④参照してください。

5条 ファウル(無効試技)及び失格

- (1) つぎのような場合は、ファウルとして試技の回数に含めます。
 - ① 飛ばした下駄を真上から見たとき、フライコースから下駄の全部または一部が出ている場合。(鼻緒含む。線上は有効。)
 - ② 飛ばした下駄がフライコースから出て、障害物に接触した後、エリア内にもどってきた場合。
 - ③ 下駄を飛ばすとき、及び飛ばしたあと、助走エリアより外の地面に、下駄の歯、もしくは、身体の一部または全部が出た場合。(線上は有効)
 - ④ 試技を終えて一旦静止した後、助走エリアの後ろ以外から退場した場合。
 - ⑤ 試技終了以前に、助走エリアから退場した場合。
- (2) つぎのような場合はファウルとせず、改めて試技ができるものとします。
 - ① 踏み切り線より後方に飛ばした場合。

但し、飛ばした下駄を取りに行く時間も競技時間に含めるものとし、助走エリアへの出入はすべて助走エリアの後方から行うものとし、

② フライコースから出ていないのに、障害物に接触した場合。

例)他の競技者の下駄が飛んできた。イベントの装飾物に当たった。など

③ 同じ競技者の下駄が接触し、接触後、フライコースから出た場合。

④ 飛ばした下駄が壊れた場合。(鼻緒は含まない)

※②～④の場合は、競技者全員が助走エリアから退場した後、計測員が下駄を競技者に渡すこととし、競技者には1試技につき改めて30秒与えられるものとし、(4条(7)参照)

(3) つぎのような場合は、失格とします。

① 開始の合図より、60秒経過しても、有効な試技が出ない場合。

② 他の競技者に故意に不利益を与えた場合。もしくは与える恐れがある場合。

6条 計測方法及び記録

(1) 計測方法

① 競技者全員が、助走エリアから退場した後、飛距離の長い方の下駄の先端(踏み切り線から一番遠いポイント。鼻緒含む。)から踏み切り線までの最短距離を測ります。

② 計測はセンチ単位とし、センチ未満は四捨五入します。

(2) 記録

① 部門は、一般男子・一般女子・小学生・幼児の4部門とし、各部門の最高記録を、「日本はきもの博物館」に常時掲示します。

※ 部門別に歴代の記録を掲示します。

② 大会開催主催者は、大会開催1週間以上前に、当協会に「開催届」(別紙①)を提出します。

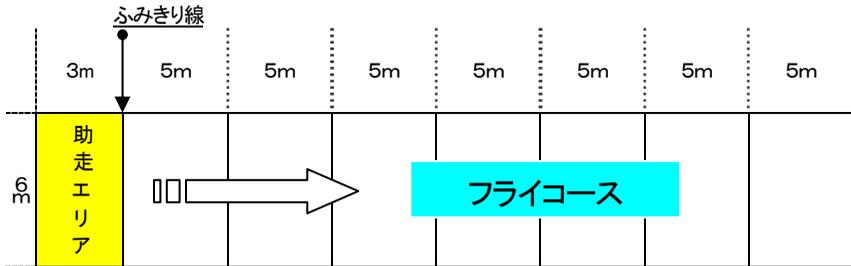
③ 開催届を提出した大会において、新記録が出た場合は、実施

後3週間以内に、「記録届」(別紙②)に必要事項を記入し、競技会の開催を証明できる写真を添えて、当協会へ届けて下さい。

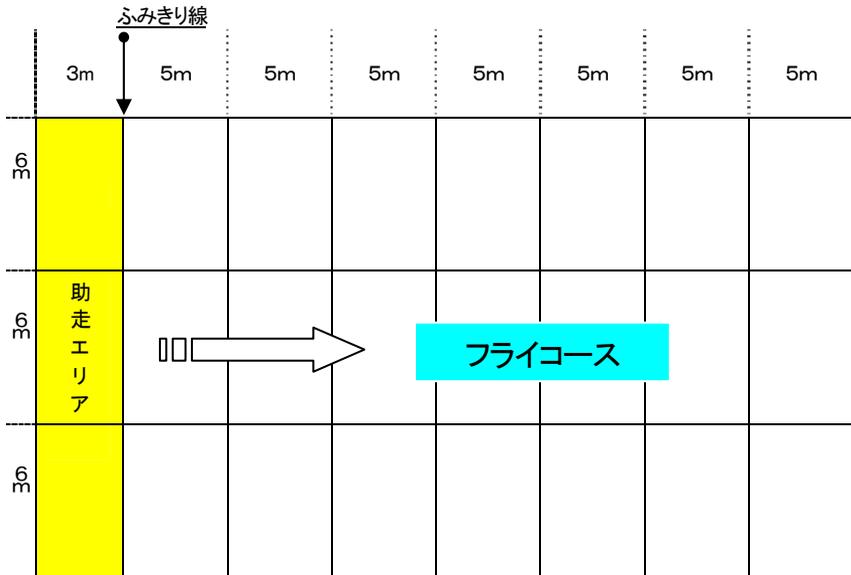
- ④ 最高記録保持者に対し、「世界記録認定書」(別紙③)を当協会より発行します。

別図①(2条関係)

<1コース設定の場合>

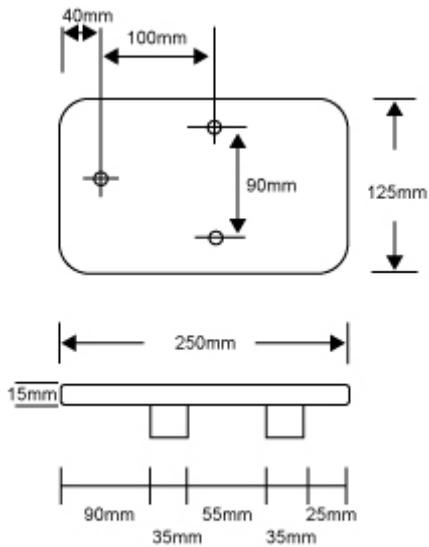


<複数コース設定の場合> ※コースの数に制限はありません。



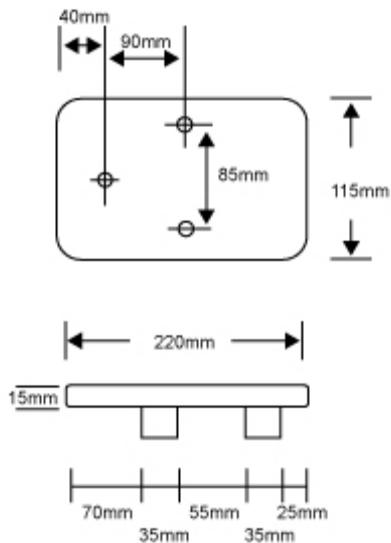
別図②(2条関係)

<一般用(男女とも)の下駄>



別図③(2条関係)

<子ども用(小学生・幼児)の下駄>



下駄とばし
競技開催届

別紙①

日本下駄とばし協会 様

tel: (084) 933-2151 / fax: (084) 933-2152

e-mail: cci@fukuyama.or.jp

つぎのとおり、「下駄とばしルールブック」にのっとり競技会を開催
します。

大会名 (イベント名)	
開催日時	
開催住所 及び 会場名	(住所) (会場名)
大会(イベント) 主催団体名, 代表者名 及び連絡先	(団体名) (代表者名) (連絡先住所及び電話)
競技役員 (主審)名 及び連絡先	(主審名前) (連絡先電話)

年 月 日

大会主催者代表者名(自筆)

印

下 駄 と ば し 記 録 届

別紙②

日本下駄とばし協会 様

tel: (084) 933-2151 / fax: (084) 933-2152

e-mail: cci@fukuyama.or.jp

大会名 (イベント名)	
開催日時	
開催住所 及び 会場名	(住所) (会場名)
大会(イベント) 主催団体名, 代表者名 及び連絡先	(団体名) (代表者名) (連絡先住所及び電話)
競技役員 (主審)名 及び連絡先	(主審名前) (連絡先電話)
競技者	(名前) 男・女(歳)
競技部門	一般男子・一般女子・小学生・幼児
記 録	()M()cm

上記のとおり、間違いありません。(写真添付)

年 月 日

主審名 (自筆)

印

世界記録認定書

様

部門

記録

m

cm

上記の者は、下駄とばし競技において、
()年()月()日現在の世界記録保持者
であることを認定します。

年 月 日

日本下駄とばし協会

会長 山本 武 印

付 その他

(1)競技用具の購入について

公式の競技用具については、当協会または広島県はきもの協同組合で注文を承ります。

<注文受付>

○ 日本下駄とばし協会

事務局：福山商工会議所 松永支所内

住所：〒729-0104 広島県福山市松永町 3-13-9

tel:(084)933-2151/fax:(084)933-2152

○ 広島県はきもの協同組合

住所：〒729-0105 広島県福山市南松永町 3-1-59

tel:(084)934-3322/fax:(084)934-3323

ホームページアドレス：<http://www.e-hakimono.com>

<価格>

一般用 1足 2,625円(税込) 10足組 23,625円(税込)

子ども用 1足 2,100円(税込) 10足組 18,900円(税込)

(2)「日本はきもの博物館」について

「日本はきもの博物館」は、松永下駄 100 年を記念して昭和 53 年(1978 年)に財団法人遺芳文化財団によって設立された、日本で唯一の『はきもの』専門の博物館で、日本はもとより世界から古今東西の『はきもの』に関する資料を収集、展示、研究する『はきもの』情報センターです。

<http://www.maruyama.gr.jp/FootAndToy>

「下駄とばし」の歴代記録については、常時「日本はきもの博物館」に掲示されます。

(3)「リハビリ下駄とばしのすすめ」について

近年、靴を履くことでの弊害、すなわち足部の変形などに関して、多くの報告がされています。扁平足や、内反小趾(ないはんしょうじ)あるいは外反拇趾(がいはんぼし)などの悩みは、年齢、世代を超えた悩みとなっています。

下肢(あし)の健康を視野にいれた本冊子の「下駄とばし競技」

と併せ、当協会では外反拇趾などに対する治療として「リハビリ下駄とばし」を提案しています。

また、この「リハビリ下駄とばし」は、今日の高齢社会での高齢者の健康という面からお役に立てる競技となることでしょう。

「リハビリ下駄とばし」については、別冊の「リハビリ下駄とばしのすすめ」を参照してください。
(治療方法と競技方法を記載しています。)

下駄とばし ルールブック

平成14年3月24日 第1刷発行

編者・発行 福山商工会議所 地域振興活性化事業推進委員会